

Ⅲ 2～4ページ①～⑱の研究プロジェクト関連論文リスト

①報告書 ◆浜田・尾関・富樫 (1999)「八方尾根黒菱平における1998年の積雪分布」紀要2, 93-98. ◆尾関・富樫・糸賀 (1999)「長野オリンピックにおける八方尾根男子滑降スタート地点問題と自然保護」日本生態学会誌49, 283-286.

②報告書 ◆宮脇昭 (1998)「日本のふるさと-信州-」信州農山村ふるさと運動推進協議会編「わが心のふるさと」, 221-223. ◆井田・井上雅仁 (1998)「飯綱山におけるハンノキ林の構造」紀要1, 1-6. ◆藤原 (1998)「長野県戸隠高原産スゲ属の新雑種」紀要1, 7-10. ◆須賀 (1998)「長野県北部における訪花昆虫群集(概観)」紀要1, 11-21. ◆堀田・江崎保男・馬場隆 (1998)「長野県北部のブナ林とカラマツ林における繁殖期の鳥類群集の比較」紀要1, 23-29. ◆田所 (1998)「長野県北信地域における自然保護行政」紀要1, 31-42. ◆田所 (1999)「長野県南信地域における自然保護行政」紀要2, 109-122. ◆堀田恭子 (2000)「長野県中信地域における自然保護行政」紀要3, 17-28. ◆浦山 (1998)「長野県戸隠村におけるツキノワグマと住民生活」紀要1, 43-57. ◆尾関・井田 (1998)「美ヶ原高原放牧地の植生」紀要1, 59-64. ◆岸元 (1998)「『残したい自然』アンケート結果報告」紀要1, 71-79. ◆北野・中村浩志 (1998)「長野県におけるオオサンショウウオ *Andrias japonicus* の第3記録」紀要1, 81-83. ◆藤原・松田義徳・阿部裕紀子・大塚 (1998)「長野県産カナワラビ属の一新雑種」植物地理・分類研究46, 129-148. ◆須賀 (1998)「長野県産のハナバチ類とその生息環境」New Entomol. 47, 65-66. ◆藤原 (1999)「長野県安曇野産スゲ属の新雑種」紀要2, 23-26. ◆岸元 (1999)「戸隠森林植物園におけるノウサギ *Lepus brachyurus* の生息密度-INTGEP法の試み-」紀要2, 27-31. ◆富樫・酒井潤一・公文富士夫・小林舞子 (1999)「飯綱火山南東麓の逆谷地泥炭層」紀要2, 33-41. ◆富樫・内田克・楠元鉄也 (1999)「逆谷地湿原における泥炭層サンプリング計画-環境変遷史解読を目的として-」紀要2, 99-108. ◆田所 (1999)「自然保護のあり方-法制度・諸問題・人々の動きから考える-」紀要2, 43-53. ◆堀田恭子 (1999)「自然保行政の現状と課題-長野県北部地域を事例として-」都市問題90(11), 95-115. ◆井田 (1999)「ガールスカウト戸隠キャンプ場の森林の構造とその保全」紀要2, 71-76. ◆北野・久保田伸三 (1999)「諏訪湖流入河川におけるアマゴおよびヤマトイワナの個体群構成と性成熟」紀要2, 77-83. ◆浦山 (1999)「長野県の猪垣」紀要2, 129-134. ◆堀田・江崎・馬場・今堀 (2000)「カヤノ平ブナ林と周辺地域の繁殖期の鳥類群集とその変遷」信州大学教育学部附属自然教育研究施設研究業績37, 37-47. ◆松島信幸・富樫 (2000)「天龍村の地形と地質」天龍村史8-107. ◆浜田 (2000)「1998年4月1日～2日にかけて長野県中部で発生した雨水による森林被害の分布」紀要3, 55-60. ◆長野県生物多様性研究会脊椎動物調査部会・長野県自然保護研究所 (2000)「『長野県版レッドデータブック脊椎動物編』の作成に係る市町村向けアンケートによる動物分布調査結果」紀要3, 29-39. ◆大塚 (2002)「日本産ザゼンソウ属の分布-特にナベクラザゼンソウについて」紀要5, 1-8. ◆田辺智隆・富樫・小野寺丈尚太郎・酒井潤一・宮下忠 (2002)「長野県北部戸隠高原の逆サ川層の層相と形成年代」紀要5, 15-22. ◆岸元 (2002)「飯綱山登山道におけるネズミ類の捕獲記録」紀要5, 43-46. ◆北野・尾関 (2002)「飯綱高原の小溪流における気温と水温の季節変化」紀要5, 51-55. ◆大塚 (2001)「長野県におけるベニシダの分布」長野県植物研究会誌34, 25-34. ◆大塚 (2001)「長野県のシダ植物雑記(9)」長野県植物研究会誌34, 35-40. ◆Otsuka, K., Watanabe, R., and Inoue, K. (2002) A New Species of *Symplocarpus* (Araceae) from Nagano Prefecture, Central Japan. J. JPN. Bot. 77.96-100. ◆大塚 (2003)「長野県北部鍋倉山におけるナベクラザゼンソウの生育環境」紀要6, 23-28. ◆大塚・北野 (2003)「野ネズミによるザゼンソウ属3種の果実及び花序の捕食」紀要6, 29-34. ◆藤原・中村恭子・横澤邦子 (2003)「千曲川中流域の河辺植生-現状と保全-」紀要6, 1-22. ◆阿部裕紀子・藤原 (2003)「長野県木曾川中流域のフロラ」秋田県立博物館報28, 23-46. ◆山本聡・沢本良宏・井口恵一朗・北野 (2004)「千曲川水系の山地溪流における出水後のイワナの停留と移動」長野県水産試験場研究報告6, 1-3. ◆小林尚・北野・山形哲也・上原武則 (2004)「木曾川上流域におけるアジメドジョウ *Niwaella delicata* の分布」紀要7, 23-28. ◆大塚・尾関 (2004)「長野県北部幸礼村で自生が確認されたホソバノシバナ(シバナ科)紀要7, 41-43. ◆飯島慈裕・浜田 (2004)「中部山岳地域多要素気象観測点の展開による2002年冬季の観測結果」紀要7, 45-54. ◆北野・河合吉因・井田 (2003)

「雑魚川流域におけるニジマスとイワナの生態的特徴」信州大学教育学部附属自然教育研究施設研究業績40, 9-13. ◆岸元 (2003)「ニホンカモシカにおける特定鳥獣保護管理計画の実施状況と課題」哺乳類科学増刊3, 25-29. ◆大塚 (2003)「ナベクラザゼンソウの葉形と根茎の位置」長野県植物研究会誌36, 21-24. ◆大塚 (2004)「長野県飯綱高原におけるヒメザゼンソウの展葉および開花パターン」信州大学教育学部附属自然教育研究施設研究業績41, 15-19. ◆竹重聡・大塚・堤久 (2004)「センジョウウデングの新産地」長野県植物研究会誌37, 39-43. ◆大塚・尾関・羽秋隆哉 (2004)「長野県希少野生動物保護条例の規定により指定された希少野生動物」長野県植物研究会誌37, 81-84. ◆大塚 (2004)「ザゼンソウの斑入り品」植物地理・分類研究52, 85-86. ◆大塚 (2004)「信州のシダ」ほおずき書籍, 194p. ◆北野・柳生将之・秋山晴紀・小林尚・市川寛・遠藤辰典・山本祥一郎 (2004)「木曾川水系王滝川上流域の魚類相」研報1, 9-13. ◆樋口澄男・北野・近藤洋一・野崎久義・渡辺信 (2004)「木崎湖における車軸藻類の分布(2001～2002)」研報1, 29-37. ◆浜田・北野・富樫 (2004)「2002年～2004年の飯綱高原における気象観測結果」研報1, 57-61. ◆大塚・尾関・宮入英治 (2004)「須坂市で再確認された長野県絶滅種スギナモ(スギナモ科)の自生」研報1, 63-64. ◆岸元 (2004)「千曲川流域における外来種アメリカミンク (*Mustela vison*) の野生化」研報1, 65-68. ◆北野・樋口澄男・楚山勇・酒井昌幸 (2004)「潜水撮影で記録された中綱湖の大型無脊椎動物および魚類」研報1, 65-68. ◆Higuchi, H., Shin, H.-J., Nakamura, H., Uematsu, A., Kuno, K., Saeki, M., Hotta, M., Tokita, K., Moriya, E., Tamura, M. (2005)「Migration of Honey-buzzards *Pernis apivorus* based on satellite tracking」Ornithological Science 4, 109-115. ◆小林尚・北野・柳生将之・大塚・高田啓介 (2006)「木曾川支流の小川水系における淡水魚類の生息状況」研報2, 105-109. ◆大塚・尾関 (2006)「長野県飯山地域におけるカツラマルカイガラムシによる樹木枯れ」研報2, 111-117. ◆大塚・小山泰弘・上野勝典・上野由貴枝 (2006)「長野県絶滅種ジロボウエンゴサクの松本市での自生確認」研報2, 119-121. ◆須賀 (2006)「外来生物法による外来昆虫の管理: その制度的・科学的背景-特に長野県の生態系への影響が懸念されるセイウオオマルハナバチをめぐって-」研報2, 1-14. ◆北野・岸元・中村慎 (2006)「治山堰堤が設置された東信地域の小溪流における魚類および両生類の生息状況」研報2, 15-22. ◆畑中 (2006)「長野県内における有機性資源の需給バランス分析の試み」研報2, 59-64. ◆大原均・堀田 (2006)「飯田市上村におけるソウシチョウ *Leitohrix lutea* の生息状況」研報2, 65-68. ◆尾関・大塚 (2006)「上高地公園線周辺の森林植生および樹木衰退状況」研報2, 69-74. ◆浜田・尾関 (2006)「美ヶ原高原において条線土の観察される風衝砂礫地の地温環境」研報4, 97-100. ◆大塚 (2007)「ザゼンソウ及びナベクラザゼンソウの展葉と開花パターン」信州大学教育学部志賀自然教育施設研究業績44, 7-10. ◆大塚・尾関・八木隆・千葉悟志 (2007)「アズミノヘラオモダカの長野県木曾町における新産地と既知産地の現状」植物地理・分類研究55, 107-109. ◆大塚・尾関・宮入盛男 (2007)「外来生物オオカワゲヤ(ゴマノハグサ科)の千曲市における自生確認」長野県植物研究会誌40, 151-153. ◆岸元 (2007)「信州の自然を脅かす外来生物①外来生物の何が問題か?」信州自治 (2007年5月号), 56-62. ◆岸元 (2007)「信州の自然を脅かす外来生物②佐久地域に広がるアメリカミンク」信州自治 (2007年7月号), 50-56. ◆岸元 (2007)「ツキノワグマ2006年大量出没の要因を考える」山と博物館52, 2-3. ◆岸元 (2007)「長野県におけるツキノワグマの保護管理計画と大量出没の実態」JBN緊急クマシンポジウム&ワークショップ報告書, 16-21. ◆Usio, N., 中田和義・川合唯史・北野 (2007)「特定外来生物シグナルザリガニ (*Pacifastacus leniusculus*) の分布状況と防除の現状」陸水学雑誌68, 471-482. ◆堀田 (2007)「信州の自然を脅かす外来生物③下伊那地域を中心に広がる外来鳥類、ソウシチョウ」信州自治 (2007年9月号), 60-66. ◆尾関・土田勝義 (2007)「八方尾根蛇紋岩地における地質境界付近の植生変化」長野県植物研究会誌40, 19-23. ◆北野 (2007)「野尻湖におけるブルーギル・ブラックバス類の繁殖状況」研報3, 87-91. ◆須賀 (2008)「信州の自然を脅かす外来生物⑤セイウオオマルハナバチ: 高山にも広がるおそれ」信州自治 (2008年1月号), 28-33. ◆北野 (2008)「夏季の野尻湖沿岸地におけるオオクチバス、コクチバス、ブルーギルの分布」研報4, 79-82. ◆堀田 (2008)「長野県環境保全研究所飯綱庁舎敷地の鳥類相」研報4, 87-91. ◆

特集◆研究所20周年記念

大塚・尾関(2008)「千曲川本流における特定外来生物オオカワヂシャ(ゴマノハグサ科)の分布」研報4, 93-95◆大塚・永井茂富・尾関(2008)「長野県環境保全研究所飯綱庁舎自然観察路沿いの植物相」研報4, 97-103◆横井・大塚・尾関(2012)「長野県環境保全研究所飯綱庁舎自然観察路の植物相補遺1」研報8, 75-76◆富樫(2008)「飯綱火山東麓の牟礼層の層相と14C年代」研報4, 111-115◆前河(2008)「信州の自然を脅かす外来生物⑥特定外来生物 植物4種の長野県内における分布概況」信州自治(2008年3月号), 38-45◆大塚・尾関(2009)「長野県の主要河川における特定外来生物オオカワヂシャ(ゴマノハグサ科)の分布」研報5, 83-86◆須賀(2009)「長野県環境保全研究所飯綱庁舎自然観察路および飯綱高原スキー場周辺のチョウ類」研報5, 1-9◆富樫・畑中(2009)「住民アンケートによる地震動の実態把握-中越沖地震時の飯綱町の事例から-」研報5, 11-19◆大塚・尾関・石沢進(2009)「長野県絶滅種アイナエの南木曾町及び栄村での自生確認」研報5, 81-82◆永井茂富(2009)「霊仙寺山東斜面スキー場の植物相」研報5, 87-96◆大塚・尾関(2010)「長野県北部姫川本流における特定外来生物オオカワヂシャ(ゴマノハグサ科)の分布」研報6, 31-34◆前河・永井(2010)「特定外来生物オオキンケイギク, オオハンゴンソウ, ヤエザキオオハンゴンソウの分布-長野県北信地方の事例-」研報6, 17-20◆永井・古澤良幸・羽田収(2010)「特定外来生物オオハンゴンソウの駆除の効果」研報6, 55-60◆永井・牛山孝佳(2010)「長野市芋井軍足池並びにその周辺水田の植物相」研報6, 61-70◆堀田・大原均・齋藤信・杉山要・北澤千文(2011)「長野県における特定外来生物(鳥類), ソウシチョウ *Leitohrix lutea* とガビチョウ *Garrulax canorus* の生息状況」研報7, 19-22◆江崎保男・馬場隆・堀田(2006)「森林性 *Emberiza* クロジの繁殖生態、なわばりへの帰還と行動圏の著しい重複」山階鳥類学雑誌38, 67-79◆Yamaguchi, N., Tokita, K., Uematsu, A., Kuno, K., Saeki, M., Hiraoka, E., Uchida, K., Hotta, M., Nakayama, F., Takahashi, M., Nakamura, H. & Higuchi, H. (2008) The large-scale detoured migration route and the shifting pattern of migration states in the Oriental honey-Buzzard *Pernis ptilorhynchus*.] *Journal of Zoology* 276:54-62.◆菊池卓弥・大塚(2009)「秋田県大平山旭又口登山道におけるナベクラザゼンソウの垂直分布」秋田自然史研究56, 6-8◆蛭間啓・大塚(2009)「長野県飯田市山本三ツ山でカラタチバナの生育を確認」伊那谷自然史論集10, 80-80◆Yamamoto, S., Yagyu, M., Kitano, S., & Sakano, H. (2010)「Differences in longitudinal distribution patterns along a Honshu stream of brown trout *Salmo trutta*, white-spotted charr *Salvelinus leucomaenis* and masu salmon *Oncorhynchus masou*.」*Fisheries Science*76, 275-280◆前河(2009)「第一章 ニセアカシアによる治山・砂防緑化」崎尾均編「ニセアカシアの生態学-利用・生態-管理-」, 14-29◆富樫(2009)「白馬大雪渓上部, 葱平付近の地質の特徴と崩壊との関連」山岳科学総合研究所ニュースレター14, 9-10◆富樫(2010)「信州の湖沼・湿原堆積物と過去数万年の植生変遷」沖津進・安田正次編著「亜高山・高山域の環境変遷-最新の成果と展望-」, 78-81◆福江祐子・岸元(2010)「長野県千曲川流域で捕獲された外来生物アメリカミンク *Neovison vison* の外部計測値」研報6, 35-43◆井口恵一朗・北野(2010)「移植放流と遺伝的攪乱」*野生動物の事典*, 219-224◆北野・井口恵一朗(2010)「外来魚の放流規制」*野生動物の事典*, 230-238◆前河(2011)「外来植物の除に関する意向調査-長野県内市町村の事例-」研報7, 43-52◆須賀(2011)「半自然草原とチョウ」山岳科学ブックレット7, 86-96◆須賀・丑丸敦史・田中洋之(2011)「日本列島における草原の歴史と草原の植物相・昆虫相」湯本貴和ほか編「シリーズ日本列島の三万五千年-人と自然の環境史 第2巻 野と原の環境史」, 101-122◆Otsuka, K., Suyama, C. and Ueda, K. (2011)「Geographical variations in spadix color of *Symplocarpus renifolius* (Araceae) in Honshu, Japan.」*J.Jpn.Bot.*86, 156-161◆大塚・浜田・植田邦彦(2011)「日本産ザゼンソウ属植物の発熱現象」植物研究雑誌86, 224-229◆片野修・黒川マリア・北野・東城幸治(2011)「小河川におけるワンド・タマリの魚類群集」陸水学雑誌72, 181-192◆横井(2011)「長野県新産のイセアオスゲ(カヤツリグサ科)の分布および生態に関する記録」*莎草研究*16, 69-72◆富樫(2011)「信州の湿原はいま…現状と課題」大町山岳博物館企画展「くさばなの一生」展示解説書, 14-17◆須賀・岡本透・丑丸敦史(2012)「草地と日本人-日本列島草原1万年の旅-」築地書館, 244p◆竹下欣宏・大塚勉・小林和宏・近藤洋一・田澤岳哉・田辺智隆・寺尾真純・富樫・中村由克・花岡邦明・宮下忠(2012)「2011年長野県北部地震における地震災害と地形・地質の関連性」信州大学山岳科学総合研究所長野県北部地震災害調査研究報告書, 17-30

◆久野公啓・堀田(2013)「ハチクマの蜂食行動と行動圏」樋口広芳編「日本のタカ学-生態と保全-」, 124-144◆Ida, H., Hotta, M., & Ezaki, Y. (2013)「A bagging experiment to evaluate the effect of predispersal predation exclusion on nut viability in beech (*Fagus crenata* Blume).」*Jpn.J.For Environ.*55(2), 133-137◆堀田(2013)「【特別寄稿】高山帯の鳥類・哺乳類、その変化を見つめる試み」山からはじまる自然保護・山の自然学クラブ会報13, 66-72◆Abe, S., Sakano, H., Kobayashi, S., Kitano, S. (2013)「Stable carbon isotope variability associated with taxonomic composition of lotic benthic algae.」*Phycological Research*62, 73-73◆小坂共榮・原山智・大塚勉・津金達郎・古本吉倫・山浦直人・井関芳郎・小野和行・塩野敏昭・富樫・田邊政貴・小松宏昭・遠藤正孝・田中俊廣(2014)「揺れやすさマップ」を活かして地震に備える鶴-地盤情報から分かる地震時の地面の揺れ-」平成24・25年度松本市・信州大学共同事業「松本市地震動と地盤の相関に関する調査業務報告書」61p◆佐伯元子・堀田(2014)「日本で過ごすハチクマの暮らし4ヶ月」*BIRDER*28(9), 16-17◆植田勝之・岩本富雄・中村豊・川崎慎二・今野怜・佐藤重穂・高実喜男・高嶋敦史・滝沢和彦・沼野正博・原田修・平野敏明・堀田・三上かつら・柳田和美・松井理生・荒木田義隆・才木道雄・雪本普資(2014)「全国規模の森林モニタリングが示す5年間の鳥類の変化」*Bird Research*10, F3-F11◆原山智・小坂共榮・高橋康・竹下欣宏・富樫・寺尾真純(2015)「特集号「内陸盆地の構造と形成プロセスを刊行するにあたって」地球科学69(1), 1-2◆蛭間啓・福嶋司(2014)「東日本のブナ林に出現する広葉草本種の生育場小雪地と多雪地でなぜ異なるのか」植生学会誌31, 179-192.◆須賀(2015)「草原の日本文化」季刊民族学153, 3-16◆竹下欣宏・塚原宏昭・中村由克・富樫・近藤洋一・関めぐみ・田辺智隆・塩野敏昭・花岡邦明・宮下忠・小林和宏・寺尾真純・中川千津子(2015)「長野市・飯綱町・信濃町・小川村における11.22地震の被害状況」2014.11.22地震信州大学緊急調査報告書, 94-124◆竹下欣宏・西来邦章・富樫(2015)「四阿火山:成層火山体の開析地形とその利用」地質学雑誌121(7), 233-248◆Fukui, S., S. L. May-McNally, H. Katahira, S. Kitano, I. Koizumi (2015)「Temporal change in the distribution and composition of native, introduced, and hybrid charrs in northern Japan.」*Hydrobiologia*.783:309-316◆長野県地質図活用普及事業研究会(原山智・大塚勉・古本吉倫・松下英次・富樫・山浦直人)編著(2016)「長野県デジタル地質図2015」北陸地域の活性化」に関する研究助成事業論文集(第20回), 85-88(成果DVD付)◆Nakamura, Y., Shitara, T., Pavel, K., Ishida, Y., Suzui, S (2015)「Distribution of *Betula* species in Japan.」*BERICHTE DER REINHOLD - TUXEN- GESELLSCHAFT*27, 35-48◆柳生将之・北野・大月健二・美馬純一(2016)「松本盆地における外来魚ブラウントラウトの生息状況」塩尻市立自然博物館紀要16.1-8◆内田博・大塚勉・黒江美沙子(2016)「オオタカ *Accipiter gentilis* の雄幼鳥の繁殖なわばり確立過程」*日本鳥学会誌*65(2):129-142.

③報告書 ◆堀田(1999)「日本におけるライチョウの生息個体数-これまでに明らかになったこと-」紀要2, 1-12◆尾関・松田行雄(1999)「天狗原湿原における19年間の植生変化」紀要2, 13-21◆須賀(1999)「中部山岳高山帯のシャクナゲ属2種に訪花するマルハナバチ-日本のマルハナバチ群集の長期モニタリングにむけて-」紀要2, 85-91◆井田・尾関(2000)「北アルプス乗鞍岳における車道際のハイマツ年枝の伸長生長」紀要3, 1-7.

④報告書 ◆前河(1998)「動物用移動経路における生態的機能評価のための自動撮影システムの開発」紀要1, 65-69◆富樫(2001)「長野冬季五輪と男子滑降スタート地点問題が残したもの」第14回森と自然を守る全国会in 北海道資料集,138-144◆富樫(2001)「長野冬季五輪の自然環境保全対策に関する検証」生活と環境46(11), 65-67◆Togashi H. (2002) Toward Striking a Balance between the Olympics and Environmental Conservation CD-ROM record of the IV IOC World Conference on Sport and the Environment◆富樫(2004)「長野冬季五輪はどこまで環境をまもれたか」「スポーツ倫理の探求」大修館書店, 62-70◆富樫(2004)「長野冬季五輪男子滑降競技スタート地点論争が残したもの」「スポーツ倫理の探求」大修館書店, 70-80◆近藤良亨・森田啓・笠原亜希子・富樫(2005)「長野冬季五輪の遺産-スポーツ, 文化, 環境-」体育原理研究35, 75-86.

⑤報告書 外部投稿なし

⑥報告書 ◆陸・岸元・井田・堀田・尾関・浜田・北野(1999)「自然の総合的な理解をめざした自然観察会のための学習プログラム」紀要2, 55-69◆富樫(2000)「旅人の時代へ」信州自治53(2), 64



-71◆陸 (2001)「環境学習プログラム編みなおしのための提案」紀要4, 1-10◆陸 (2003)「環境教育は環境運動の一部」いぶき6, 1-4.

⑦報告書 ◆富樫 (2002)「地形と流域システム」システム農学18, 81-89◆浜田 (2004)「最近の長野県における大規模小売店舗の動向とそれが地球温暖化に及ぼす影響についての検討」年報長野県地理23, 15-21◆富樫・堀順一 (2005)「地質構造に規制された地下水汚染-長野県豊丘村の事例-」第15回環境地質学シンポジウム論文集, 65-70◆林弘道・堀順一・富樫 (2006)「地下水汚染の予測-評価事例(実務編)-山間農村地域における地下水の硝酸性窒素汚染事例-」環境アセスメント学会誌4 (2), 11-19◆片倉正行・岡本透・富樫・清水靖久・妹尾洋一・松澤義明 (2008)「土石流で現れた埋没性黒色土層の生成年代と古代の山地利用」中森研56, 293-296◆堀順一・富樫・樋口純男・笹井春雄 (2013)「千曲川中下流域の代表地点における過去30年間の地下水変化」研報9, 23-28◆富樫 (2013)「下伊那郡豊丘村の地下水資源と自然史との関わり」伊那谷自然史論集14, 31-39.

⑧報告書 ◆糸賀 (2002)「里山の保全再生を考える」信州自治55 (4), 48-51◆浦山 (2004)「長野盆地北西部の丘陵地-野生動物からみた地域の変化-」『教授退官記念論文集 山・雪・形』◆北野・大塚・富樫・浦山・畑中 (2003)「長野県北部千曲川支流の魚類相」紀要6, 35-40◆尾関・大塚・浜田 (2003)「長野市飯綱高原のカラマツ人工林の森林構造」紀要6, 45-48◆富樫・田中義文・沖津昌宏 (2004)「長野市飯綱高原の人間活動が自然環境に与えた影響とその変遷」紀要7, 1-16◆北野・上原武則 (2011)「近年における大座法師池および浅川の魚類群集の変化」研報7, 53-55.

⑨報告書 ◆前河・Hyugens, O.C・Carr, M.M・後藤光章・岸元・Pelton, M.R.・林秀剛 (2000)「長野市郊外で捕獲したツキノワグマの行動圏(速報)」紀要3, 61-65◆岸元・前河・Hyugens, O.C・後藤光章・林秀剛 (2002)「長野県上水内郡信濃町で捕獲したツキノワグマの行動圏」紀要5, 37-42◆岸元 (2006)「平成15 (2003)年度におけるカモシカの特定鳥獣保護管理計画に基づく胃内容物分析」研報2, 101-104◆泉山茂之・望月敬史・岸元・後藤光章・林秀剛 (2008)「長野県におけるツキノワグマ (*Ursus thibetanus*) の里地への出没時期と年齢査定による大量出没要因の解明」信州大学農学部 A F C 報告6, 19-24◆Kishimoto, R. (2009)「Status of the 2006 drastic rise of Asiatic black bear (*Ursus thibetanus*) intrusions into residential areas in Nagano Prefecture」JFPRI Scientific Meeting Report 4 "Biology of Bear Intrusions", 3 5-39◆Nakashita, R., Suzuki, Y., Goto, M., Izumiyama, S., Kishimoto, R., Yoh, M., & Hayashi, H. (2009)「Key finding on bear intrusions into residential areas in Nagano Prefecture from stable isotope analysis」In "Biology of Bear Intrusions" (eds. T. Ooi et al), Forestry and Forest Products Research Institute, Kyoto, 40-43◆Shimatani, Y., Hukue, Y., Kishimoto, R. & Masuda, R. (2010)「Genetic variation and population structure of the feral American mink (*Neovision vison*) in Nagano, Japan, revealed by microsatellite analysis」Mammal Study 35, 1-7◆岸元・佐藤繁 (2008)「長野県ツキノワグマ保護管理計画における生息数のモニタリングとその課題」哺乳類科学48, 73-81◆岸元 (2011)「北部の豪雪地帯にも広がる長野県のシカ」グリーンパワ-2011年5月号, 6-7◆岸元・伊藤武・今井翔 (2012)「[長野県飯伊地区シカ対策協議会] による下伊那地域におけるニホンジカ (*Cervus nippon*) のライトセンサス調査」研報8, 37-41◆泉山茂之・岸元・中下留美子・鈴木彌生子・後藤光章・林秀剛 (2012)「山ノ内町におけるツキノワグマ人身事故の検証」信州大学農学部 A F C 報告10:133-138.◆泉山茂之・岸元・中下留美子・鈴木彌生子・後藤光章・林秀剛 (2012)「塩尻市における牛舎周辺の捕獲ツキノワグマ (*Ursus thibetanus*) の食性分析」信州大学農学部 A F C 報告10: 139-143.◆泉山茂之・中下留美子・岸元・鈴木彌生子・林秀剛・瀧井暁子 (2013)「長野市街地ツキノワグマ出没個体は人里に依存していたか?-安定同位体比分析による食性解析」信州大学農学部 A F C 報告11:25-28.◆中下留美子・岸元・鈴木彌生子・瀧井暁子・林秀剛・泉山茂之 (2013)「塩尻市における牛舎周辺のツキノワグマ (*Ursus thibetanus*) 捕獲個体の家畜飼料依存」研報9, 17-22.◆中下留美子・林秀剛・岸元・鈴木彌生子・瀧井暁子・泉山茂之 (2014)「塩尻市における閉鎖牛舎での捕獲ツキノワグマの家畜飼料依存度」信州大学農学部 A F C 報告12, 85-90◆中下留美子・岸元・瀧井暁子・橋本操・鈴木彌生子・林秀剛・泉山茂之 (2015)「長野県塩尻市における過去10年間のツキノワグマ捕獲状況と捕獲個体の人里依存度」信州大学農学部 A F C 報告13, 89-98.

⑩報告書 ◆土田勝義・尾関 (2003)「登山道荒廃地の植生復元-北アルプス八方尾根蛇紋岩地を事例として-」環境情報科学論文集

17, 17-22◆尾関 (2006)「高山植生とその荒廃にみる雪のかかわり」自然保護489, 36-37◆須賀 (2006)「赤石山脈三伏峠周辺で採集されたハナバチ類」New Entomologist 55, (1, 2), 33-34◆津田拓也・尾関 (2006)「美ヶ原高原における自然再生事業について」国立公園644, 26-27◆尾関 (2009)「中央アルプス発 中央アルプス固有の高山植物の動態と気候変動」大町山岳博物館「日本アルプス・富士山・白山・研究室発 高山の自然は今…そしてその未来は…?」, 48-45◆朝倉俊治・増田章二・近藤多美子・室伏孝一・堀田 (2010)「南アルプス南部におけるライチョウの分布と生息状況」増沢武弘編著「南アルプス:地形と生物」, 351-365◆朝倉俊治・増田章二・近藤多美子・堀田 (2011)「南アルプス南部(赤石山脈)におけるライチョウ *Lagopus mutus japonicus* の標識調査」鳥類標識誌23, 47-54◆堀田・尾関 (2014)「センサ-カメラによる北アルプス後立山連峰の岩小屋沢岳周辺のニホンジカ初確認」研報10, 33-36.

⑪報告書 ◆浦山 (2007)「霧ヶ峰高原の山麓集落による高原資源の利用と生業の変遷-近世から近代を対象に-」研報3, 71-78◆尾関・岸元 (2009)「霧ヶ峰におけるニホンジカによる植生への影響: ニッコウキスゲ・ユウスゲの被食圧」研報5, 21-25◆川上・大塚 (2008)「霧ヶ峰高原における火入れ実施による植生の変化」研報4, 105-109◆逢沢浩明・吉岡麻美・尾関・三井悠・武田句平 (2009)「霧ヶ峰における靴底付着物除去マット発芽実験」研報5, 97-101◆岸元・逢沢浩明・吉岡麻美・石田康之・三井健一・須賀聡 (2010)「霧ヶ峰におけるニホンジカ *Cervus nippon* のライトセンサス調査による個体群変動」研報6, 13-16◆尾関 (2011)「霧ヶ峰におけるニホンジカによる植生への影響」湯本貴和・須賀編著「信州の草原その歴史をさぐる」, 157-172.

⑫報告書 ◆前河 (2005) 里山における樹液食甲虫類の移動実態-長野県信濃町アファンの森の事例-信州大学教育学部附属自然教育研究施設研究業績42, 13-16◆須賀 (2005)「ハナバチ類の生息環境としての長野県の里山」環動昆16 (2), 101-106◆浦山 (2005)「昔の遊び体験にみる信州の里山」いぶき9, 6-7◆浦山 (2005)「昭和20年代の生業を中心とした暮らしからみる「するてゝもどす」」長野県民俗の会会報28, 30-35◆富樫 (2007)「過去100年にわたる里山の環境復元の試み-飯綱町矢筒山の事例-」研報3, 71-78◆川上・大塚・富樫 (2007)「飯綱町矢筒山の植物相」研報3, 93-99◆前河・清水博文 (2008)「2. 里山にすむ甲虫の生態調査」大町山岳博物館企画展「カブトムシとクワガタムシ-里山の甲虫たちの未来は?」展示解説書, 10-18◆前河・清水博文 (2008)「3. 里山と里山の甲虫たちを守るには」大町山岳博物館企画展「カブトムシとクワガタムシ-里山の甲虫たちの未来は?」展示解説書, 19-27◆清水博文・前河 (2008)「4. 外来昆虫の野生化の問題」大町山岳博物館企画展「カブトムシとクワガタムシ-里山の甲虫たちの未来は?」展示解説書, 28-29◆富樫 (2011)「生物多様性と里山」長野県産業環境保全協会会報「サン」39, 87-89◆畑中・陸・井出政次 (2012)「長野県における薪ストーブの利用実態とCO<sub>2</sub>排出量の推計」研報8, 25-30.

⑬報告書 ◆浜田 (2004)「ライブカメラ画像を利用した山岳地の積雪モニタリング手法の検討」環境情報科学論文集18, 239-240◆浜田 (2009)「山岳地における太陽光発電システムの発電電力量推定にむけた日射量とモジュール温度の推定」研報5, 49-54.

⑭報告書 ◆浜田・榎原保志・中川清隆・田中・鈴木智恵子・三上岳彦 (1998)「長野市における気温鉛直分布の観測」科学技術振興事業団戦略的基礎研究推進事業「都市ヒートアイランドの計測制御システム」中間報告書, 23-29◆一瀬俊明・浜田・田中 (2005)「山風が都市ヒートアイランドに及ぼす影響に関する研究-長野市における観測事例の報告-」第13回地球環境シンポジウム講演論文集, 135-140◆Hamada, T., Ichinose, T., Tanaka, H., and Mikami, T. (2006)「Effect of mountain wind on urban heat island in Nagano, Japan」Preprints 6th International Conference on Urban Climate, 743-746◆Takashi HAMADA, Hiroharu TANAKA, and Toshiaki ICHINOSE (2008)「Preliminary study of the vertical structure of mountain wind in Nagano city, central Japan」Geographical Report of Tokyo Metropolitan University 43, 91-98◆陸・浜田 (2009)「赤外線放射温度計による表面温度測定を利用したヒートアイランド学習プログラム」研報5, 55-64◆名本祐太郎・森昌殷・高木直樹・持田灯・登内隆宏・菊池大・大風翼・浜田 (2010)「内陸都市長野と沿岸都市仙台の夏季温熱環境の比較(その1)長野盆地を対象とした広域測定」日本建築学会学術講演梗概集D-1, 897-898◆森昌殷・菊池大・持田灯・高木直樹・浜田 (2010)「内陸都市長野と沿岸都市仙台の夏季温熱環境の比較(その3)観測データと気候数値解析結果に基づく信越地方の局地風と温湿度分布の分析」

特集◆研究所20周年記念

日本建築学会学術講演梗概集D-1, 901-902◆浜田・一ノ瀬俊明 (2011)「山風の流入による夏季の都市気温への影響」地学雑誌120, 403-410◆浜田 (2013)「風を活かしたまちづくりを目指す: 長野県長野市」片柳勉・小松陽介編「地域資源とまちづくり〜地理学の視点から」, 3-12

⑮報告書 ◆堀田・富樫 (2004)「白馬村旧バイアスロン競技会場予定地における猛禽類の生息状況-長野冬季オリンピック関連施設のモニタリング調査報告-」研報1, 73-78◆尾関・須賀・浜田・岸元 (2007)「ギフチョウ (*Luehdorfia japonica*) の産卵環境選択」研報3, 21-25◆富樫 (2010) 長野冬季五輪と自然との共存〜10年後の検証(その1)〜「信州自治研」218, 46-53◆富樫 (2010) 長野冬季五輪と自然との共存〜10年後の検証(その2)〜「信州自治研」219, 32-39◆須賀・尾関・浜田・岸元 (2010)「林床植生の刈り取りが白馬村のギフチョウの産卵密度におよぼした効果」昆虫と自然45 (6), 13-16◆富樫・中村慎 (2014)「長野オリンピックの環境側面」季刊環境研究175, 71-85.

⑯報告書 ◆須賀 (2008)「中部山岳域における半自然草原の遷史と草原性生物の保全」研報4, 17-31◆北野・山形哲也・柳生将之・小林尚・上原武則・市川寛・美馬純一・小林健介 (2008)「長野県におけるホトケドジョウの分布・生息環境およびミトコンドリアDNAハプロタイプ」研報4, 45-50◆北野・武居薫・河之辺素一・上島剛 (2008)「長野県内で確認されたオオクチバス及びコクチバスのミトコンドリアDNAハプロタイプ」研報4, 75-78◆北野・田崎伸一・美馬純一・柳生将之・古賀和人・山形哲也・小林収・小西蘭 (2011)「千曲川下流域における2009年の魚類採取記録」研報7, 75-78◆石塚徹・堀田 (2012)「長野県におけるオオジギギ *Gallinago hardwickii* の生息状況とその意義: 特に軽井沢と霧ヶ峰の繁殖集団について」研報8, 13-23◆須賀 (2007)「分布データは絶滅のおそれのある昆虫類の保全対策にどのように生かされるか? -長野県の現状と課題-」研報3, 113-123◆北野・四方圭一郎 (2009)「飯田市遠山川流域におけるアカイシサンショウウオの記録」研報5, 113-115◆須賀 (2010)「長野県の半自然草原-その変遷史と分布-」草地科学シリーズ2 草地の生態と保全-家畜生産と生物多様性の調和に向けて-」110-127◆須賀 (2010)「半自然草地の変遷史と草原性生物の分布」日本草地学会誌56 (3), 225-230◆須賀 (2011)「信州の半自然草原の歴史と生物の保全」文化財信濃38 (1), 35-40◆須賀 (2013)「地域の生物文化多様性とグローバルイノベーションへの歴史的視座」研報9, 1-16◆北野・逸見泰明・柳生将之・美馬純一 (2013)「松本市梓川幹線水路で増加するブラウントラウト *Salmo trutta*」研報9, 67-70◆三石稔・尾関 (2013)「長野県絶滅種コケリンドウの富士見町での生育確認」研報9, 81-83◆滝沢和彦・堀田・草間由紀子・草間理恵子 (2013)「飯綱高原のフクロウの巣から発見された絶滅危惧種シラホシハナムグリとその他の昆虫類」研報9, 85-59◆中村千賀・大塚・横井 (2013)「長野市芋井地区の水田とその周辺の植物相」研報9, 91-100◆尾関 (2014)「春植物アマノの繁殖特性」研報10, 13-17◆北野 (2014)「長野県内の野外メダカ集団に確認された非在来型遺伝子」研報10, 37-41◆横井・大塚・中山洸 (2014)「NAC寄贈標本: 茅野貫一植物標本コレクションの概要」研報10, 61-66◆栗岩竜雄・大塚・堀田 (2015)「長野県軽井沢町におけるアカボシゴマダラ (タテハチョウ科) の生息確認」研報11, 37-40◆栗岩竜雄・大塚・堀田 (2016)「長野県軽井沢町におけるアカボシゴマダラ (タテハチョウ科) の春型の生息確認」研報12, 25-28◆石田祐子・武生雅明・秋田由樹・増馬健太・前田瑞季・大塚 (2016)「長野県北安曇群小谷村におけるアズミノヘラオモダカ (オモダカ科) の自生確認」研報12, 29-33◆浦山・畑中 (2016)「長野県の伝統行事における野生生物の利用」研報12, 35-43◆浦山 (2016)「生物多様性の減少は文化にどのような影響を与えてきたのか」長野県産業環境保全協会会報「サン」44, 82-83◆浦山・畑中 (2016)「生物多様性の恵みとしての長野県の伝統行事」長野県環境科学技術者協議会会報118, 5-8.

⑰報告書 ◆須賀 (2009)「中央アルプス木曾駒ヶ岳および北アルプス八方尾根で記録されたチョウ類・マルハナバチ類-温暖化影響のモニタリングサイト設定に向けた予備調査から-」研報5, 65-72◆須賀 (2010)「北アルプス八方尾根のチョウ類-温暖化影響のモニタリング2009の記録-」研報6, 45-50◆浜田・陸 (2011)「市民参加型調査による温暖化モニタリングの実践と課題」研報7, 27-32◆横井・大塚 (2011)「長野県環境保全研究所飯綱庁舎自然観察路における林床植物の開花フェノロジー」研報7, 33-38◆尾関・浜田・飯島慈裕 (2011)「中央アルプス千畳敷におけるハイマツの年枝伸長量」研報7, 39-42◆浜田 (2011)「長野県における地域独自のモニタリング-山岳地における気象観測-」資源環境対策47 (2),

77-85◆陸・田中・浜田・畑中・武田雅宏 (2011)「地方自治体 (長野県) における適応政策導入の試みと課題」土木学会第39回環境システム研究論文発表会講演集, 315-320◆堀田・中曾根久子・渡辺憲一・植松晃岳・宮澤富幸・松原秀幸・吉田保晴・齋藤信・齋藤あずさ (2012)「長野県における夏鳥の初認・初鳴き調査 (2011年): 野鳥関係の8市民団体の会員による」研報8, 43-47◆北野 (2012)「千曲川上流域における魚類の生息状況-夏季水温と関連して」研報8, 49-53◆尾関・堀田・浜田 (2012)「赤石山脈南端部におけるハイマツ群落の分布: 高分解能衛星画像を用いた把握」研報8, 69-73◆陸 (2012)「気候変動への適応」長野県産業環境保全協会会報「サン」41, 73-75◆田中健太・平尾章・鈴木亮・飯島慈裕・浜田・尾関・廣田充 (2012)「地球温暖化が山岳域と極域の生態系に与える影響-人工温暖化実験によって何がわかってきたか? -」地学雑誌122, 628-637◆富樫・浜田 (2013)「長野県北部飯綱火山周辺域における積雪分布パターン」雪氷北信越33, 29-29◆大塚・尾関・横井 (2013)「長野県上伊那地域における常緑広葉樹シラカシ (ブナ科) の分布」研報9, 47-51◆大塚・尾関 (2015)「長野県木曾地域における常緑広葉樹シラカシ (ブナ科) の分布」研報11, 9-13◆大塚・堀田・石田・浜田・川上・横井 (2016)「長野県上田市における常緑広葉樹シラカシ逸出個体の成長過程」研報12, 1-6◆堀田・浜田・田中守 (2014)「長野市周辺におけるカラ類の産卵日と気象条件」研報10, 7-11◆田中・浜田 (2014)「長野県環境保全研究所飯綱庁舎における積雪深連続観測地点近傍の積雪深分布」研報10, 49-53◆田中・陸 (2014)「IPCC第5次評価報告書の気候シナリオに基づいた長野県における年平均気温の変化予測」研報10, 55-60◆畑中・浜田・田中・陸・長谷川曜 (2015)「長野県内のセミへの気候変動影響調査のための市民講座プログラム」研報11, 31-36◆田中 (2013)「1.1気候変動はすでに進行している」田中充・白井信雄編, 地域適応研究会著「気候変動に適應する社会」, 8-12◆田中 (2013)「コラム2気候変動の将来予測はどのように行うか? どこまで信頼できるか?」田中充・白井信雄編, 地域適応研究会著「気候変動に適應する社会」, 24-25◆浜田 (2013)「コラム3高山生態系の気候変動モニタリング」田中充・白井信雄編, 地域適応研究会著「気候変動に適應する社会」, 30-31◆陸 (2013)「3.6日本の地方自治体の取組み事例2-先行する長野県からの報告」田中充・白井信雄編, 地域適応研究会著「気候変動に適應する社会」, 85-89◆畑中 (2013)「コラム9市民参加型モニタリングによる気候変動の報告-身近な生物の変化」田中充・白井信雄編, 地域適応研究会著「気候変動に適應する社会」, 90-91. ◆田中・小林和彦・馬場健司・増富祐司・広田知良 (2013)「温暖化フォーラム報告「温暖化適応策と農業現場での適応行動」生物と気象13, 6-10◆畑中・陸 (2013) 市民による温暖化モニタリング「信州・温暖化ウオッチャーズの課題と対応」長野県環境科学技術者協議会研究報告23, 6-10◆白井信雄・陸 (2013)「長野県における適応策の取組経緯とモデルステディ」西岡秀三・植田和弘・森杉壽芳 (監修), 損保ジャパンほか (編著)「気候変動リスクとどう向き合うか-企業・行政・市民の賢い適応」, 147-153◆Hotta, M., Tsuyama, I., Nakao, K., Ozeki, M., Higa, M., Kominami, Y., Matsui, T. & Tanaka, N. (2014)「Impact of climate change on the alpine habitat of the Rock Ptarmigan in the Hida Mountains, Central Japan.」Ornithological Science13, 215-215◆陸 (2014)「長野県における各種分野の適応策」三村信雄 (監修), 太田俊二他 (編)「気候変動適応策のデザイン」, 29-30◆陸 (2015)「長野県における適応への取組み」生活と環境60 (7), 24-28◆陸 (2015)「長野県における気候変動適応策実装へ向けた取組み」日本不動産学会誌29 (1), 72-78◆栗林正俊・富樫・浜田・尾関・大和広明・陸・畑中 (2017)「長野県における5年間のセミの抜け殻調査-気候変動が身近な生物に及ぼす影響を評価する試みとして-」研報13 (印刷中) ◆大和広明・栗林・浜田 (2017)「信州・気候変動モニタリングネットワークの収集データを用いた短時間強雨の解析事例」研報13 (印刷中)

⑱報告書 ◆富樫・小山丈夫 (2004)「牟礼村袖之山の舟石が教えてくれるもの」紀要7, 29-39◆富樫・小山丈夫 (2005)「ひとつの石に向ける視点-エコミュージアムにおける地域の遺産とは-」エコミュージアム研究10, 67-74◆富樫・原山智・北野 (2012)「『自然の歴史をどう伝えるか-上高地における新しいエコツアーの紹介-』」研報8, 55-68◆富樫・横山裕 (2015)「上田盆地の地形発達と上田泥流の起源」研報11, 1-8◆富樫・新版長野県地質図作成委員会 (2013)「進化する地質図-暮らしへの活用-」地学教育と科学運動71, 25-30◆富樫 (2015)「『特別寄稿』山の魅力と山とのつきあい」山からはじまる自然保護 山の自然学クラブ会報14, 91-94.

(以上、計285報)